

平成30年度

姉妹都市アメリカオハイオ州セントメリーズ市

姉妹図書館ウェストフルームフィールド図書館

青少年海外派遣事業報告集

Youth Delegation Exchange Report 2018

平成30年7月23日～31日（9日間）



目次・・・

◆ 青少年海外派遣団員名簿	2
◆ 訪問行程表	3
◆ 報告	
『多くのことを学んだ9日間』 中山 智帆	4
『青少年派遣に参加して』 北畑 理桜	6
『初めてのアメリカ』 中舎 由妃華	8
『最高のホストファミリー』 中山 弥咲	10
『青少年派遣を振り返って』 大石 紗慧	12
『9日間のアメリカ派遣について』 桑名 小雪	14
『アメリカに行って感じたこと』 國賀 真穂	16
『9日間の海外派遣を終えて』 佐々木 有紀	18
『アメリカに行って感じたこと』 前田 未来	21
『9日間の海外派遣に参加させていただいて』 山本 葉月	23
『平成30年度淡路市青少年海外派遣団として』 石上 温子	25
『平成30年度青少年海外派遣事業について』 正井 祐次	33
◆ 思い出アルバム	38

平成30年度青少年海外派遣団員名簿

	氏 名	学校名及び学年
1	中山 智 帆 (ナカヤマ チホ)	東浦中学校 1年
2	北 畑 理 桜 (キタハタ リオ)	北淡中学校 2年
3	中 舎 由 妃 華 (ナカヤ ユキカ)	東浦中学校 2年
4	中山 弥 咲 (ナカヤマ ミサキ)	北淡中学校 3年
5	大 石 紗 慧 (オオイシ サエ)	津名高等学校 2年
6	桑 名 小 雪 (クワナ コユキ)	津名高等学校 2年
7	國 賀 真 穂 (クニガタ マホ)	津名高等学校 2年
8	佐 々 木 有 紀 (ササキ ユキ)	津名高等学校 2年
9	前 田 未 来 (マエダ ミライ)	津名高等学校 2年
10	山 本 葉 月 (ヤマモト ハツキ)	津名高等学校 2年
リーダー	石 上 温 子 (イシガミ アツコ)	津名中学校 英語教諭
サブリーダー	正 井 祐 次 (マサイ ユウジ)	教育部社会教育課スポーツ推進室

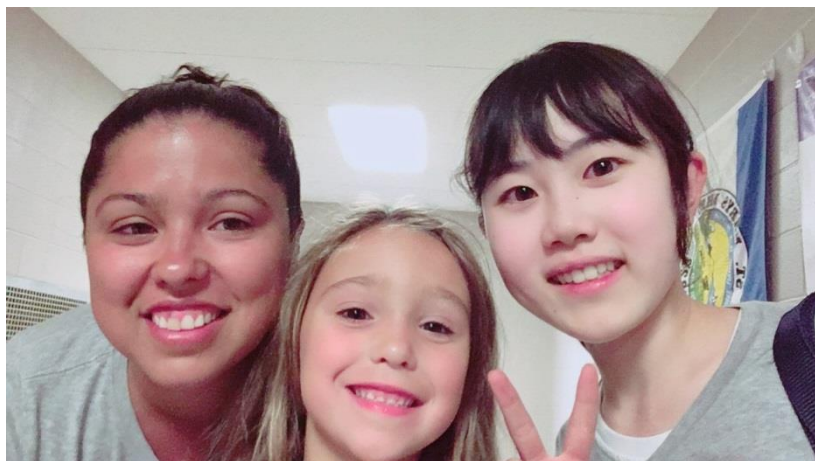
◆セントメリース市・ウェストブルームフィールド図書館訪問スケジュール◆

7月23日（月）	淡路市出発 ウェストブルームフィールド図書館到着、見学 図書館で夕食
7月24日（火）	Westacres 分館見学 ルースベルト小学校でマジックショー GM ルネサンスセンターで昼食、ツアー 在デトロイト日本国総領事館訪問 Motown Museum 見学 レストランで夕食
7月25日（水）	デトロイトを出発、セントメリース市へ Friendship Center でホストファミリーと対面 昼食、野外ゲーム等 Nature Center 見学 公園でプール
7月26日（木）	市役所で歓迎式 メモリアルパークとヘリテージパーク見学 消防署・警察署訪問 アートアクティビティ体験 ダニエル・ムーニー博物館見学
7月27日（金）	保育園訪問 ニール・アームストロング博物館見学 メモリアルパークでピクニック 中学&高校訪問 自転車博物館見学
7月28日（土）	ホストファミリーとの自由行動日
7月29日（日）	Auglaize County Fair 見学、終日参加 Friendship Center で送別会
7月30日（月）	デイトン空港出発、帰路へ
7月31日（火）	伊丹空港到着 淡路市到着

アメリカに着いて2日目の24日。まだ飛行機での疲れはとれていなかったけれど、優しい現地の方々と一緒に過ごし、充実した一日になりました。

始めに行った **Westacres Branch** というウェストブルームフィールド図書館の分館の図書館では、たくさんの本、DVDがありました。それに子供が遊べるスペース、くつろいで本を読めそうなソファやイスがありました。利用者のために色々な工夫を見ることができ、楽しかったです。自由に使えるパソコンもあったので一日中図書館で過ごせるなと思いました。日本の図書館とは違い、本やDVDの種類が豊富で規模が違って、本当にびっくりすることだらけでした。色々な事が知れて勉強になりました。図書館の方が写真を撮ってくれたり、一緒にしゃべってくれたりもしました。英語が少ししか話せない私に優しく接してくれたことに本当に感謝しています。

図書館の見学後には、マジックショーや日本国総領事館、美術館へ行きました。あっという間に一日が過ぎようとしていました。そして最後には図書館の方々と一緒に夕食を食べました。ピザやサラダ、パンなどのアメリカ料理を楽しみました。日本と味が違っていましたが、おいしかったです。スピーチをした後には書道パフォーマンスをしました。喜んでもらえて嬉しかったです。帰る時には、名刺を渡して感謝の気持ちを伝えました。別れるのは寂しかったけれど、ハグをしてもらったので、とても嬉しかったです。色々な面で助けてくれたり、話してくれた方々に感謝しました。



ホストファミリーには自由行動以外の日にも色々な場所に連れて行ってもらいました。特に心に残っているのは、一緒にスーパーマーケットに行ったことです。ここでも日本のスーパーマーケットと規模が違うなと思いました。迷子になりそうぐらい広がったので、ワクワクしました。お会計の時は、緊張したけれどしっかり払えて良かったです。店員さんも優しくしてくれて嬉しかったです。もう一つ心に残っていることは、ホストファミリーと一緒にハンバーガーやポテトを食べたことです。ハンバーガーやポテトにジュースどれもアメリカサイズでびっくりしました。でも、おいしかったです。ホストファミリーと話す時は、スマホや高校生に頼ってしまったところもあるけれど、一生懸命伝えられたので良かったです。ホストファミリーと話しながらかご飯を食べるのは、本当に嬉しかったし、楽しかったです。最後の日の朝に名刺の裏に感謝の気持ちを込めて手紙を書きました。そしたら、とても喜んでくれたので嬉しかったです。毎日私達のために色々してくれたホストファミリーと別れるのはとても寂しかったです。

9日間アメリカに行って、日本と違う所がたくさん見る事ができました。そして、現地の方々とジェスチャーを使って一生懸命、会話をするのが本当に嬉しかったし、大切な思い出になりました。また、ホストファミリーや現地の方々と再会したいなと思います。その時までこの経験を生かして、もっと英語が話せるようになりたいです。学んだことは日本での生活や外国人と話す時に役立てていきたいです。



派遣の1日目とセントメリーズ市での自由行動について書きます。

1日目はアメリカに行くために乗り継ぎもしながら長い時間飛行機に乗りました。私は、飛行機に乗るのが初めてですごくこわくて不安だったけど、乗ってみたらすごく楽しかったです。飛行機の中にはテレビがついていて、映画を見たり途中で寝たりしました。それと、機内食がとても楽しみでした。機内食では、食事がえらべたのでとても感心しました。

アメリカに着いても、最初はアメリカに来たという実感がありませんでした。空港に着いてバスに乗ってみると、車の通る道が逆だったことやアメリカ人がいっぱいいたことでやっとアメリカに来たんだという実感ができました。まず、バスに乗ってウェストブルームフィールド図書館に行きました。図書館に着いてみなさんに会って、おやつを食べました。きんちょうもしていたのか英語で何を言ってるのか分からなかったです。ここで思ったことは、私たちが英語だけでは分からない時に写真を見せて教えてくれたりジェスチャーで教えてくれてすごく親切だなと思ったのと、アメリカにはお茶がなくてほとんどジュースだったのでびっくりしました。アメリカの図書館は、日本の図書館と違ってすごく規模が大きくて、図書館にテラスまであってビックリしました。無事ウェストブルームフィールド図書館に着いて、この派遣のいいスタートがきれたと思います。



セントメリーズ市での自由行動日の頃には、ホストファミリーとの会話も増えてすごくなじんでいました。自由行動では動物園、バイキング、ホームセンターに連れて行ってもらいました。動物園は日本ではあんまり見れない動物も見れたので、すごくワクワクしたしおもしろかったです。動物園にへびを持った人がいました。ホストファミリーに「タッチ、タッチ」と言われました。最初は無理、こわいと思っていたけど記念だと思って触ってみました。すごくやわらかくてびっくりしました。そのあとぐるぐる園内を回ってキリンにエサをあげる体験をしました。これもこわくて、最初はいやで「こわい！」と言っていたけどやってみたら楽しかったです。鳥のショーも見ました。鳥が人の言っていることを真似していてすごいと思いました。動物園に行って思ったことはすごく広いと思ったことです。

動物園に行ったあとバイキングでごはんを食べて帰宅しました。帰宅したあとバイクに乗せてもらいました。上着も着て乗りました。ヘルメットやバイクがかっこよかったです。自由行動でより仲が深まったと思いました。

9日間を通して、アメリカの人はとても温かいと思いました。セントメリーズ市は自然がいっぱいで自分の住んでいる淡路市とほぼ変わらないと思いました。ひとつだけ食べ物と飲み物は日本のほうが美味しいなと改めて感じました。そして、快く送り出してくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。



初めてのアメリカ

中舎 由妃華

私はこの夏に初めて海外に行きました。初めてなので何も分からなくて不安でした。しかし、事前の研修会でスピーチの練習や英会話の練習ができたので少しずつ不安が楽しみに変わっていきました。

いよいよ出発の日。楽しみであふれていました。飛行機での12時間はとても長かったです。早くアメリカに行きたかったのもっと長く感じたのだと思います。アメリカに着いた時、想像していたより街の雰囲気やバスの中は日本にもありそうなかんじでした。

アメリカに着いて2日目。姉妹図書館のウェストブルームフィールド図書館を訪れました。アメリカの図書館は、私が見たことのある図書館とは違って美術館のように可愛くてとても広くて売店もありました。特にドライブスルーで本を借りることができる工夫はすごいと思いました。他にはルーズベルト小学校や在デトロイト日本国総領事館にも訪れました。ルーズベルト小学校ではマジックショーを見ました。トランプを使ったマジックなど沢山のマジックを見ることができたので楽しかったです。在デトロイト日本国総領事館ではデトロイトのことを質問したりデトロイトのことについて教えてもらいました。その建物からはカナダが見えてきれかったです。



私が特に楽しみにしていたホストファミリーとの自由行動では動物園と音楽を聞きに連れてってもらいました。動物園はとても広いので汽車みたいな乗り物もありました。沢山のエリアがあってどこに行きたいか聞いてくれて私たちはトラやライオンがいるゾーンを選びました。動物は日本にいる動物とかわらなかつたです。動物園には遊園地やプールがありました。動物園から出るときに、お土産屋にいきました。みんなのお土産を買うのが楽しかったです。ライオンの人形やアニマルクッキーなどを買いました。ミミズみたいなお菓子があって面白かったです。音楽を聞きに連れていってもらおうと、一人の女の子が走って来ました。その女の子はホストファミリーの娘さんでした。彼女は仲の良い友達と暮らしていて今日家に帰って来ました。その子は私と年齢が同じでだんだんと仲良くなりました。歌が好きらしくいっしょに家で歌を聞いたりしてとても楽しかったです。

そして最後の日。ホストファミリーの人たちと、美味しい味と美味しくない味があるロシアルーレットのようなゲームをしました。美味しくないに味は腐った卵の味やドックフードの味などがあり面白かったです。

私はアメリカに行ってアメリカと日本との違いがわかつたし、アメリカの良いところや日本の良いところを沢山見つけることができました。アメリカの文化も知ることができました。だからこの経験を今後生かしていきたいです。そして、もっと沢山の国に行きたいです。



セントメリーズ市での自由行動の日と最終日について書きます。

自由行動日の朝、私達は9時半に起きました。前日の晩、motherに「何時に家を出たい？」と聞かれて「9時半で」と答えたのに。結局10時半に出てショッピングに行きました。大きすぎるショッピングモールで22ドルのTシャツを買ってもらいました。思い出ができてすごく嬉しかったです。昼食もおいしく食べて、たくさんはしゃぎました。

帰宅後、私達は21時から庭のプールに入りました。セントメリーズ市は日本より涼しくて夜も遅くまで明るかったけど、感想は「寒い！」それだけです。でも、ホームステイ先の娘のJaylaが一番はしゃいでいて本当に楽しそうにしていたことが嬉しかったです。一人っ子のJayla。私達だけが楽しんでいるわけではなくて、みんなで楽しめて本当によかったです。

次の日は私達の滞在最終日です。まず、Auglaize County Fairに行きました。美術展や馬の発表会、移動遊園地など、様々なイベントが行われていました。午前には美術展と馬の発表会を見た後、少し遊園地まで時間があるということで、岩がいっぱい積んである庭に行きました。鬼ごっこをして小学生に戻った気になりました。そして、移動遊園地で絶叫マシンに乗り、気分が悪くなりました。それくらい楽しみました。



夜は、Friendship Center で私達のお別れ会をしました。筆や半紙など日本から持って行った書道パフォーマンスでは、ホストマザー（ぶたを2匹飼っている）が「ぶた」と書いているのが個人的に面白かったです。書道パフォーマンスの後は、写真撮影会になりました。これでもう最後なんだと思うと悲しくなりました。

最後の日だから、ずっと起きていたかったけど、疲れて寝てしまいました。次の日は飛行機の時間が早くて、朝の4時過ぎに集合だったのに朝早くから朝食を作ってくれて、本当にいいホストファミリーでした。

初めての海外は、たくさん英語が日常にあるアウェーな世界でした。でも、私の意味のわからない英語もみんな耳を傾けてくれました。まったく違う景色、食文化。ただ、人の優しさは世界共通です。また行きたいです！今度は、もっと英語を勉強して行きたいです。アメリカ人の優しさに触れることができ、いい体験になりました！



青少年派遣を振り返って

大石 紗慧

アメリカに行く前は正直楽しみよりも不安の方が大きくて、ちゃんと楽しめるかなあとかホストファミリーの人たちと仲良くできるかなあなど色々考えていたけど実際に行ってみるととても楽しめました。

セントメリース市での自由行動の日はショッピングモールに連れて行ってもらいました。ショッピングモールはとても広くてどこを見てもインスタ映えしそうでカラフルでした。お土産を買いに行きたいと言うと超巨大スーパーに連れて行ってくれておすすめのお菓子とかたくさん教えてくれてすぐにお土産を買うことができました。

家に帰ってからは手作りのカップケーキを食べて家にあるプールに入りました。アメリカは夜の9時半ぐらいまで明るくて10時前ぐらいまでプールに入りました。ホストファミリーの子供と一緒に浮き輪に乗ったりプールの中で遊んだりすごく楽しかったです。その後 UNO をしました。あまり長くする予定じゃなかったけど楽しくて何回もしました。アメリカに来て一番楽しかったなあと思いました。



アメリカにいた時間は本当にあっという間で、全部が初めての経験でとてもいい思い出になりました。その中でも私が一番思い出に残っているのは、出発日前日に Auglaize County Fair へ行ったことです。もうアメリカにも慣れてホストファミリーの人たちとも打ち解けていたので一緒に乗り物に乗ったりいっぱい話したりとても楽しかったです。私はとても怖くてキャーキャー言っているのに隣でホストファミリーの子供がめっちゃ笑顔で「It's Interesting!」と言っていたのですごいなと思いました。乗り物もほとんど全部乗れたし、色んなところのホストファミリーの人たちともいっぱい話したり写真も撮れたのでよかったです。まだ帰りたくないなあと思いだしたときにもう日本に帰らないといけなくてとても寂しかったし悲しかったです。

その日の夜にあったお別れ会もすごく楽しくてどんどん帰りたくなくなっていきました。けど、もう次の日には出発しないといけなくてつらくてなかなか眠れませんでした。次の日朝早くに出発する時もまだおりたいですごく思いました。日本に帰ってきてからも写真を見返すと楽しい思い出ばかり思いだしてもう一回行きたいなあといつも思います。

私は今回この派遣事業で淡路市の代表として行かせていただいて本当にいい経験ができました。アメリカで学んできたたくさんの子供たちに伝えたいし、アメリカに行ってみたいと思ってもらえるようになにか出来ればいいなと思います。



9日間のアメリカ派遣について

桑名 小雪

27日のことを中心に書きます。27日は、ホームステイ先に少しずつ慣れてきた頃でした。ですが私は、時差ボケがなかなか治らず、眠れなかったです。

この日は、最初に全員で集まってバスに乗り保育園に行きました。保育園はなにより、日本の保育園と雰囲気から中身から違いすぎて驚きました。とても綺麗な建物で、全体的に私が一番驚いたのは、とてもちっさい子の部屋から大きい子供の部屋まで、きっちり区切られている事です。子供たちはとても可愛くて、アメリカの国旗の旗をプレゼントしてくれました。初めて会う私たちに人見知りするかと思ったけど、写真を撮ろうと声をかけると、ニコッとしてくれてとても嬉しかったです。そのあとは少し大きめの子供達に会いました。日本の紙風船と紙笛をプレゼントすると早速遊んでました。楽しそうで良かったです。

保育園の後は、宇宙のミュージアムに行ってきました。不思議な世界観を味わうことができました。NASAについてなんて私は全然知らないことばかりだったけど、実際に操縦するゴム手袋の感覚など、実際に体験できて面白かったです。お昼ご飯は、公園でみんなで食べました。先日伺った警察署の警察官も来てくれていてとてもテンションが高くなりました。みんなのホームステイ先の子供達ともここで少し仲良くなれました。



その後は、メモリアルハイスクール（中高一貫校）に行きました。入り口にいるカウボーイがアメリカの雰囲気をとても漂わせていました。学校にとっても大きなジムがあったり、自動でイスやネットが出てくる体育館などもあり、とても感動、興奮しました。

アメリカは、全体的に何もかもが大きく感じました。とても楽しかったし、いい経験ができました。私はとても英語が苦手で、少しでも慣れたらいいなと思い今回のホームステイに参加しました。英語ができない事で、とても苦労した場面はとてもたくさんあったけど、その分とても勉強になったと思っています。辛かった場面もあったけど、最後はホームステイ先の子供達、両親とともに仲良くなることができてお別れが寂しかったです。今回のこの経験を今後活かせたらいいなと思っています。たくさんの思い出ができ、最高の9日間でした。ありがとうございました。



アメリカに行って感じたこと

國賀 真穂

26日の午後はまず、警察署と消防署に行きました。アメリカの消防車はとても大きく日本とは2倍くらい違っていました。初めてはしご車に乗せてもらって、とても高く遠い所までよく見えました。次に警察署に行きました。警察署で銃を持たせてもらった時はとても重くて、1人では持てないくらいでした。手錠や拳銃、防弾チョッキ、どれもがとても重たく大変な仕事だと改めて思いました。牢屋に入れさせてもらった時は、思っていたより寒かったです。とても怖くて寒気がしてきました。パトカーの見学もさせてもらいました。助手席と運転席の間にパソコンがあって驚きました。

次に、本を作る体験をしました。ページ数が多い人は大変でした。私もページ数が多めだったので折るのが大変でした。折れたら色を塗っていく作業で、とても楽しかったです。そして、できたら表紙を貼るのですが、私は時間をかけてしまい貼ることができませんでした。この日の最後はみんなで夕食にピザを食べました。色んな種類があり、どの種類も食べてとても美味しかったです。こんなにたくさんの種類を食べることは初めてで、幸せでした。

29日の自由行動日では、前日の夜に洞くつとフェスティバルに行くと言っていたホストファミリーのお母さんから聞いていたのですが、29日の朝、用意をして1階に降りるとお母さんはもう仕事に行っていていませんでした。お母さんが帰ってきたのは昼でした。昼からフェスティバルに行きました。



そこには乗り物があり、私たちはホストファミリーの人たちと一緒に乗りました。アメリカの乗り物はスピードが速くて頭がガクガクになりました。その後パレードを見に行きました。そのパレードは日本と違う所があり、キャンディーをくれるパレードでした。私もキャンディーをもらって、こんなパレードがあるんだなと驚きながら楽しんでいました。あまりにもたくさんキャンディーをくれるので、帽子に入れましたがその帽子も溢れるぐらいの量でした。この日は楽しすぎてあっという間に時間が過ぎてしまいました。

アメリカに行く前は、とても不安で英語を話すことができるのかなとか喋れなかったらどうしようなど考えていました。でも、行ってみると現地の人達は優しく、わかりやすい英語やジェスチャーを使ってくれてコミュニケーションをとることができました。ホームステイでしか体験できない、日本とアメリカの違い、アメリカの人達との英語での会話などたくさん経験できた9日間。これから英語をたくさん勉強して、もう一度アメリカに行きたいです。



9日間の海外派遣を終えて

佐々木 有紀

26日はまず、Mooney Museum に行つて来ました。それは古い家の中がありました。外観からは想像出来ないほど沢山昔の貴重な写真やお金、グランドピアノまでもありました。そこは子ども達が大好きだから子ども達の勉強の助けになればということで作られたと聞いてあったかい気持ちになりました。私がもう一つあったかい気持ちになったのは、病気で死にかけの男性がいて、昔から好きだった初恋の女性に最後に結婚してほしいと頼めば良いよと言われてから病気が嘘のように治り仲良く暮らしたと聞いてめっちゃ素敵でかわいい話を聞かせてもらったなと思いました。

そのあと、全員で晩御飯にピザを食べに行きました。ピザ屋さんでは最初日本人で集まり、外国人で集まっていました。その方が話しやすいから。でも、外国人の方と喋ってみるとめっちゃ楽しいということに私はびっくりしました。最初は、名前を聞いたり好きな色、好きなスポーツとかしか聞くことができませんでした。でもその質問からどんどん深い質問にしていくと共通点が見つかったりしてとても楽しかったです。日本の話も沢山知っている子だったのでジブリの話で盛り上がられてとてもとても嬉しかったです。ピザもいつの間にかペロリと食べ終わってしまっていたくらい楽しかったです。



ホームステイ先の mom の名前はジルと言います。ジルは看護師として病院で働いています。だから仕事から帰ってくるまでは家でトランプをして遊んだり、マジックを披露したりしていました。ジルが帰って来てからはみんなで一緒にフェスに行きました。そこには遊園地のようなアトラクションが7、8個ありました。どれも絶叫系のものばかりで（ホームステイ先の同年代の子の名前はケイト）ケイトとまほとグルグル回るやつに乗りました！めっちゃおもしろかったです！叫びながらも楽しめました！まほはダウンしてしまいましたが、ケイトはピンピンしていました。その次もケイトに乗ろうと誘われて乗りました。次は、とても早く回転するやつで乗るのが怖かったです。楽しいという感覚より怖さしかなかったです。地上に足がつけた時の安心感は大きすぎました。それでもケイトはピンピンしていてむしろ元気になっていっていました。どこからそんなパワーが湧いてくるのか分かりませんでした。アメリカは強い刺激を求めているんだな、と思いました。

そのあと一旦家に帰りまた違うフェスを見に行きました。そこではブラスバンドの子たちや、チアリーディングの子たち、オープンカーに乗り手を振る人や、歩いてキャンディーをほってくれる人がいました。日本にはない文化がたくさん見えました！オープンカーに乗っている人はみんな美人な女の子でした。ブロンドの髪の白人女性もいれば漆黒の髪色に赤リップがよく似合った黒人女性もいました。かわいいチビっ子もいました。みんな私たちを見て"Hi"と言ってくれたり、とても優しい人ばかりでした。アメリカの優しい人柄に近くで触れた気がしました。また、キャンディーをたくさんほってくれて嬉しい気持ちになりました！



フェスが終わってからハンバーガーやポテトを食べました。アメリカのサイズはデカかったです！日本のMサイズがアメリカでSサイズでした。やっぱ本場は美味しすぎました。ドリンクは炭酸が多くて何が違うのかわかりませんが種類が多かったです。そのあと巨大なスーパーに行きました！ホストファミリーのオススメのものを買ったり、色々お土産を買ったりしました！どこまでも私たちに尽くしてくれるホストファミリーが大好きです。一日があっという間に終わってビックリしました！！とても充実した自由行動となりました！

この9日間を終えて、私は英語をもっと勉強してもっと会話ができるようになりたいと思いました。またアメリカに来たいと思いました。だから頑張りたいと思います。将来についても考える機会となりました。キャビンアテンダントになりたいと憧れていましたがさらにこの夢を叶えたいと強く思いました。まだまだこれからのことかもしれませんがこの9日間が私に与えてくれたのはとても大きく貴重な時間でした。異国で言語の異なった場所で共同して生活することの難しさ、楽しさを感じる事が16歳で体験できたことを誇りに思います。そしてこの体験ができたことが自分だけの力じゃないことを考え感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



アメリカに行って感じたこと

前田 未来

25日と、自由行動日について書きます。25日は2日間お世話になったウェストブルームフィールドを出てセントメリーズ市に到着しました。到着してホストファミリーと対面した時は緊張で何を話していいか分からなくて会話できませんでした。でも目があつたときにニコツとしてくれたりしたので、だんだん緊張しなくなって喋りかけることができました。自分と話している言葉が違うという概念を持っていると、コミュニケーションを取るのは難しいと思いました。

昼食はアメリカに来て初のハンバーガーでした。自分で好きなものを入れて食べて本当に美味しかったです。アメリカはジュースもそうだけど、自分で入れたり作ることが多いと感じました。屋外のゲームは初めてするものだったので難しかったけど、だんだんコツを掴めたのでまたやりたいと思いました。プールはホームステイ先の子と距離を縮められた時間だったと思います。言葉を交わさなくても一緒に泳いだり笑ったりするだけで距離を縮めることができるんだなと思いました。ホストファミリーの人達にはアイス屋さん連れて行ってもらったり、クッキーを作らせてもらったりアメリカで有名な麺を食べさせてもらったりして色んな食の文化を学ぶことができました。クッキー作りは砂糖の量が日本の倍以上で驚きました。



自由行動では動物園に連れて行ってもらいました。日本の動物園にはない4Dの映画館があってすごく楽しかったです。キリンのエサやりをホームステイ先の子と一緒にしたりアイスを食べたりしてどんどん仲良くなれました。分からない動物がいたらこれはこういう動物だよと教えてくれて優しい部分もたくさん見れました。心が温かくなりました。

そして、アメリカの文化を学んだだけではなく、日本の文化も少し伝えることができたかなと思います。折り紙で鶴と一緒に折ったり、扇子や万華鏡と一緒に使ったりして喜んでくれたので自分も嬉しかったです。

このホームステイを通して学んだことは自分達と使う言葉が違って文化が違って、分かり合うことはできるということです。確かに言葉がわからないとすれ違うこともあります。でもそこで諦めるのではなく分かろうとする気持ちが大切だと私は学びました。その気持ちが相手にも伝わって初めてコミュニケーションが取れるのではないかなと思いました。自分の考え方も変わって貴重な体験になりました。



9日間の海外派遣に参加させていただいて

山本 葉月

9日間のホームステイに参加させていただいた事、本当に感謝している。アメリカに行くというのはこの歳ではなかなか出来ない体験であり、自分を大きく成長させることが出来たと思っている。私がアメリカに行く前に決めた二つのことは「ネイティブの人達と英語で会話すること」と「日本以外の国の文化を知ること」であったが、とても満足のできる結果になったと思う。そんな充実した9日間の中の27日について、私が思ったことを2つ報告する。

① 子供の興味をひきつけやる気にさせる部屋

27日、私達がはじめに訪れたのは派遣先にある保育園だった。この保育園やはじめの2日間に訪れた2つの図書館を見て思ったのが、子供が飽きないような工夫をいっぱいしている事だ。保育園のあるひとつの部屋では、子供たちに宇宙について話をしていた。教室には星や月、惑星などが飾られていて、教室そのものが宇宙のようだった。しかし、宇宙を勉強する期間が終わればまた次の勉強内容によって模様替えされるそうだ。図書館でも同じように子供の興味をひきつけ飽きないように何度も模様替えをしている。また、図書館にはゲームしながら学べるようなソフトが入っているiPadがあり、誰でも使用できるようになっていた。

② スポーツと勉強両立に力を入れる学校

27日の最後の訪問先は中高一貫校（メモリアルハイスクール）だった。校舎の中は黄色と青ベースのカラフルな内装の校舎だった。私が校舎内を見学していて思ったことは、どの教室にも国旗があることだ。国旗がある理由は、毎朝授業が始まる前にその国旗に向かってお祈りするからだそうだ。そして、授業時間45分、移動時間(休憩時間)4分でのサイクルで学習することを聞いて、どうして休憩時間が4分なのか不思議に思った。その理由を尋ねられると、校長先生は「4分以上の休憩を与えてしまうとだらけるのでベストなのが4分だ」と言っていた。私は、これは素晴らしい考えだと思った。確かに自分も10分間の休憩のうちほとんどの時間を有効に使うことは出来ない。



次に、施設の面では、中高のそれぞれに大きな体育館があり、最新の設備でスポーツにも力を入れている学校だとわかった。ジムもあり、夏休み中は朝早くから学校に来てジムで体を鍛える生徒もいるようだ。この中高一貫校はスポーツと勉強の両方の充実を可能にするためにセントメリーズ市が協力しているのはすごいと思った。

今回のホームステイでは、実際にネイティブの人達と話すことが、はじめは難しかった。しかし、日を重ねるにつれてだんだんと理解できるようになって、ボディランゲージも交えながらホストファミリーと楽しく会話できるようになった。これは、私自身の英語能力の自信にも繋がると共に、外国人とコミュニケーションをとることの楽しさがわかった。また、違う国の教育に対する考えややり方を知ることができて、将来教師を目指す私には良い刺激となった。今回の9日間の経験をこれから先も忘れず、教師になるという夢の実現に活かしていきたいと強く思った。



平成30年度淡路市青少年海外派遣団として

石上 温子

この度、姉妹都市青少年派遣団交流プログラムに参加させていただき、本当に素晴らしい経験をさせていただきました。このプログラムを進めるにあたって、事前の研修や様々なサポートをしてくださった、すべての方々にお礼申し上げます。多くの方々のサポートがあったからこそ、成功したプログラムだと思います。

ここで、私の視点からこの9日間を振り返ってみたいと思います。

7月23日（月）

早朝4時30分。淡路市役所発のメンバーが集まり、いざ出発。眠さでまだ頭がぼーっとしている中、伊丹空港に向かいました。重たいスーツケースを持って手続きを行いました。見送りの方たちに手を振っていざ、成田へ。

成田では、手続きまで少し時間があつたので、お昼ご飯も含め自由時間に。それぞれが、最後の日本食を楽しみました。手荷物検査をして、出国審査。そこにはたくさんの外国人の人がいました。メンバーのテンションも少しずつ上がり始め、搭乗を待ちました。長時間のフライトは初めてのメンバー。飛行機の中は英語であふれていました。もちろん日本人のキャビンアテンダントもいましたが、今回の旅で初めて英語を使う場となりました。

約12時間30分のフライトを終え、いざ入国審査へ。私が驚いたのは、デトロイト空港の表示が英語と日本語だったことです。それだけたくさんの日本人がこの地に降り立つのだと思うと、なんだかうれしくなりました。入国審査では、それぞれが練習した英語を話しました。指紋を取ったり、質問されたりと、戸惑う場面もありましたが、無事にクリアすることができました。

荷物を受け取った後、一番大変かもしれないと言われていたバスへの連絡。周りの人に教えてもらいながら、比較的スムーズにバスに乗り込むことができました。

やっと図書館にたどり着き、ほっとしました。長時間のフライトで疲れ切っていたメンバーを図書館の人たちが温かく迎えてくれました。通訳の人はいても、「本格的に英語を聞いたり話したりしなければならぬ」とみんな思っていたと思います。図書館ではクララ館長から一人一人の自己紹介をしてほしいとリクエストがあつたので、みんなドキドキしながら英語で自己紹介をしました。自分の英語が通じる楽しさを実感できたでしょうか。

その後は、図書館の見学をしました。日本から今まで送られた本や贈り物を見て興奮しました。私たちが知っている図書館とははるかに違っていました。広大な敷地はもちろんのこと、設備の充実や図書館なのにドライブスルーがあることなど、感動することばかりでした。そして、ようやくホテルへ。長い長い2日間が終わりました。

7月24日（火）

時差ぼけがある中、朝食を済ませ、図書館の人たちと共にもう一つの図書館を見学。ウェストブルームフィールド図書館よりは少し小さめの図書館でしたが、それぞれが自由に本を手を取ったり、新聞記事の写真を撮ったりしていました。

次は、小学校でのマジックショー見学。図書館の夏の行事の一環と知り、驚きました。とてもクオリティの高いマジックショーにみんな声を上げていました。訪れた小学校では、夏の間、英語の補習授業をしているということでクラスを見学させていただきました。これは、英語を母国語としない子どもたちを対象としているもので、親の転勤でデトロイトにきている日本人の子どもたちもいました。不安なこともある中で一生懸命頑張ろうとしている姿を見ることができてよかったです。

その後、GM ルネッサンスセンターへ。対面にはカナダを臨むことができ、良い眺めを見ながらランチをとりました。ビルの説明を受け、デトロイト日本総領事館の訪問へ。和田総領事から「何か質問があれば・・・」と聞いてくださりましたが、みんな緊張で固まってしまい、質問ができずに困っていました。和田さんのほうから、「アメリカへ来て驚いたことや感想を言ってください」と促していただき、それぞれが自分の気持ちを述べました。和田さんは、ミシガン州の概要やオハイオ州の概要などを教えてくださいました。

最後に和田さんは、「今回のアメリカ訪問で、何が日本と違うのか、どうして違うのか、そして、日本はこれからどうしていくべきなのかをぜひ考えて、感じて帰ってください。」とおっしゃっていました。みんなはそれを感じることができたのでしょうか。

最後の見学地は Motown Museum。メンバーの中には音楽が好きな子もいて、興味津々でした。説明をしてくださった方の歌声の素晴らしさに、みんな感動し、音楽を通して触れ合うことができた瞬間でした。私もこのような音楽があったのは知らなかったもので、勉強になりました。また、随行の通訳であるアンドリューさんの同時通訳の素晴らしさにも感動させられっぱなしでした。

デトロイトでの最後の夜は、レストランでの食事会。ピザやパスタなどが並び、みんなおなか一杯食べました。初めてのスピーチは、緊張しながらもうまく言うことができました。また、図書館見学の感想などをクララ館長に伝えました。図書館の方からたくさんのプレゼントをもらい、みんな本当にうれしそうでした。最後にみんなが用意していた書道パフォーマンスを行いました。レストランということもあって、不安はありましたが、なんとか上手に書くことができました。四文字熟語の意味を伝え、みんなに喜んでいただきました。

あっというまの2日間。もっとデトロイトのことを知りたいと思いつつも、セントメリスへの出発に胸を躍らせ、眠りにつきました。

7月25日（水）

いよいよセントメリーズへ。時間通りに朝食を済ませ、空港へ。お世話になったバスの運転手さんと写真を撮り、デイトンへ向かいました。デトロイトではプロの通訳さんがすべて日本語に訳してくれていましたが、これからは自分たちでコミュニケーションをとらなければならないことをみんなわかっているかなと思いながら、ホストファミリーと対面しました。デイトン空港から約1時間。姉妹都市セントメリーズに到着。まずは、Friendship Center で昼食。昼食を待っている間、外でコーンホールというゲームをしました。すごく有名な遊びだそうで、体を動かしていなかったみんなにとってはいい運動になったようでした。ホストファミリーとのマッチングを済ませ、それぞれのテーブルで昼食をとりました。まだまだ緊張感たっぷりで翻訳機能を使いながらのぎこちない会話をしていました。

その後、Nature Center へ。プールへ行く途中で、石にそれぞれ好きな絵を描きました。記念にと近くの木の下に作品を残しました。着替えをして楽しみにしていたプールへ。これは日本人もアメリカ人も関係なく、みんなで楽しんでいました。泳いで疲れ切った中、ホームステイへ。どんな夜になるのかな・・・と思いながらみんなを見送りました。



7月26日（木）

ホストファミリーと朝食を済ませ、市役所に向かいました。議会の方々が座る席に案内され、緊張しながら座りました。少しずつ慣れ、元気な表情の子もいれば、まだ疲れが取れず眠そうな子たちもいましたが、でも、これもこのプログラムの一つだと思い、「困ったことがあれば自分でどうにかして伝えてみよう」とアドバイスしました。

とてもフレンドリーな市長さんが現れ、一気に雰囲気緩和されました。それぞれが名前を呼ばれ、市章をいただき、なんだかこの市の一員になれた気がしました。市長さんが淡路を訪問した時のお話も聞かせてくれました。剣道を体験したことや門市長が空手を披露してくれたことなど、本当に楽しかったと話してくれました。その後は、市役所の方が Memorial park や Lock 1 3、Heritage Park へと連れて行って、様々なお話を聞かせてくれました。セントメリースの歴史や発展の様子など、なるほどと思うことがたくさんありました。運河時代に物資を運んでいた Canal boat に乗り込んで当時の雰囲気を味わいました。Heritage Park では、セントメリースの姉妹都市の淡路市とドイツの記念碑がおかれ、こんなに遠く離れた地に淡路の名前があるのかと思うと、人と人との結びつきの強さを感じました。それは、これまで長きにわたってたくさんの人たちがコツコツ積み上げてきたものなのだなどと改めて今回の訪問の意義を感じさせられました。

市役所で昼食をとり、消防署と警察署の見学へ。消防署では、はしご車に乗せていただき、上から市内を眺めることができました。そして、隣の警察署へ。元気のいい警察官の方が、日本とアメリカの警察の違いを教えてくださいました。常に防弾チョッキを身に付け、拳銃を3つ携帯し、ライフルなど様々な道具をパトカーに搭載していました。訓練用の銃を持たせてもらいましたが、本当に重かったです。昨年度、アメリカ全土では学校の銃乱射事件が30件ほど起こったそうです。日本との大きな違いを実感しました。その他にも取り調べ室や科学捜査の現場などを見せてもらい、日本でも見たことのない警察内部の様子に、みんな目を輝かせていました。一緒に行ったアメリカ人の子どもたちでさえ、わくわくしているようでした。

次に Art's Place では、古本を使って写真立てのようなものを作りました。あまり時間のない中での制作だったので、途中で終わらなければならない子もいて、少し慌ただしかったです。そして、Moony Museum へ。そこは昔のセントメリースの様子などが展示された個人のお家でした。持ち主の方は、子どもたちにセントメリースのことをよりよく知ってほしいという願いを込めて、歴史博物館に改築したそうです。親切なおばさんがたくさんお話を聞かせてくれました。持ち主の方々のエピソードなど笑いが起きる場面もありました。最後に、お別れの挨拶をしていると、説明してくれた方の妹さんが神戸に住んでいて、今セントメリースに帰ってきていると知りました。「神戸ならすごく近いですよ」と話すと、「明日、時間が合えばあなたたちの訪問場所へ行くよ。」と言ってくださいました。

その日はレストランで巨大ピザを食べて終了。それぞれのテーブルで少しずつ英語の会話が増えていました。そんなみんなを見ながら私も協会長のタミーさんとの会話を楽しみ

ました。

7月27日（金）

この日、最初の訪問場所は、保育園でした。とってもかわいい園児たちに、みんな笑顔が絶えませんでした。淡路から持っていった、紙風船と吹き戻しを使って一緒に遊びました。その後は、Neil Armstrong Museum へ。初めて月面着陸をしたアームストロングの出身地とは知らなかったの、私自身とても楽しみにしていました。着くとそこには昨日、Moony Museum で説明をしてくださったお婆さんの家族がいました。本当に待っていてくれるとは思わなかったの、人の温かさを感じました。その方のお母さんが、アームストロングと高校の同級生だったので特別に記念封筒を私たちにプレゼントしてくれました。貴重なものをいただき、思い出の一つとなりました。

昼食は公園でピクニック。昨日出会った方がたくさんいました。また、通りすがりの人も日本に興味があったようで、団員に話しかけてくれました。老人ホームの方々もやってきて、アメリカ人の子たちが食べ物を取りに行っているのをみて、「私たちも行ったほうがいいですか」と同じように取りに行ってくれる団員もいて、優しさは世界共通だなと気持ちが温かくなりました。

午後からは、中学校&高校の見学でした。日本とは違い、何もかもが大きかったです。授業時間や休み時間、カフェテリアなど日本の学校とは違うシステムにみんな驚いていました。特に一番驚いたのは、体育館の広さと市民の人たちの寄付で作られた大ホールです。こんなにすごいものが学校の中にあるのかと、充実した設備の中で学習できる生徒たちがうらやましく思えました。「なぜ、各教室に国旗があるのか。」と質問した団員がいました。それは、朝、必ず国旗に向かって敬礼するからだそうです。日本ではあまりない光景に驚きが隠せないようでした。

最後は、協会長の娘さんのジャッキーが以前勤めていた Bicycle Museum へ。ここでは、彼女が様々な説明をしてくれました。現代の自転車に至るまでに何度も開発を繰り返されてきたこと、女性が乗れるように工夫されてきたことなどを知ることができました。これで、今日の訪問は終了。ホストファミリーと岐路に着きました。この日は隣のセライナ市のお祭りの日でした。夜に花火があるということで、数名がホストファミリーとアメリカでの花火を楽しみました。

7月28日（土）

この日はホストファミリーと自由行動。動物園に連れて行ってもらう子、ショッピングに連れて行ってもらう子など色々だったようです。私は、少し離れたところにある Ohio Caverns という鍾乳洞に連れて行ってもらいました。有名な観光地のようにたくさんの人たちが来ていました。私たちは Historical というツアーに参加し、どのようにしてこの地形ができたのかという説明を受けました。ある農家の人がこの鍾乳洞を農地ごと買い取った

と聞いて驚きました。

そのあとは、近くにあるおいしいと評判のチョコレートショップに行きました。かわいいチョコレートがたくさんあって、ホストファミリーのジャッキーとジュリアナもお土産を買っていました。

お昼ご飯は、ハンバーガーショップへ。さすがアメリカ、fast food がいたるところにありました。私が行ったお店ではいつも、店員さんが注文を聞きに来るだけでなく、食事の途中でも「楽しんでますか？」とフレンドリーに話しかけてくれました。知らない人ともすぐに打ち解けられるような気がしました。

長いドライブを終え、帰宅。お父さんが晩御飯を作ってくれていました。日本のお米とは違いますが、久しぶりのお米にテンションが上がりました。味もとてもおいしく、食べやすかったです。みんなはどんなご飯を食べているのかなあと気になりながら、次の日会えるのを楽しみにして、眠りにつきました。



7月29日（日）

最後の一日は、初の試みである Auglaize County Fair へ。地域の人たちが様々なブースを出していたり、家畜のセリや移動遊園地などがあり、大きなお祭りでした。みんなは移動遊園地に興味津々。日本にはあまりない光景に興奮していました。ホストの子どもたちと共に乗り物に乗って楽しみました。私は豚のセリの様子や、ブースなどを少し見て回りました。

そして、いよいよお別れ会。最後ということもあって、家族全員がそろいました。それぞれの家から持ち寄ってくれた料理を楽しんだ後、最後のスピーチ。実際の出来事を話さなければならなかったのですが、きちんと考えてきていました。発音の仕方なども教えてもらったようで、スムーズに話していました。最後に書道パフォーマンス。大きな半紙に書いた四文字熟語はまた飾ってくれるようです。そして、ホストファミリーも実践。どんな字が書きたいかを聞きながら、うちわや色紙に好きな文字を書いていました。大人も子どもも初めての経験だったようで、とても楽しんでくれていました。ただし、次の日は早朝4:45出発。最後に集合写真を撮って、家に帰り、パッキングを行いました。

7月30日（月）

まだ真っ暗の中、デイトン空港へ。朝が早すぎて家族全員とのお別れはできなかったのですが、見送りに来てくれていた家族とハグをして、セントメリースをあとにしました。空港へ行く道中、ホストの一人が誕生日だということで、誕生日の歌を日本語バージョンでプレゼントしました。

手荷物検査が終わるまで待っていてくれたホストファミリー。大きく手を振ってお別れをしました。そして、ミネアポリスを経由し、無事に戻ってきました。淡路に着いた時は疲れ切っていたので、あまり多くの会話はできませんでしたが、きっと充実した9日間を過ごしてくれただろうと、報告会で会うのが楽しみになりました。

最後に

今回、この訪問で私自身が強く感じたことが3つあります。

1つ目は、私たちが訪問した先では、本当にたくさんの人たちが温かく迎えてくれたことです。それは、その人たちの心の温かさもありますが、これまで長い年月をかけてこのような関係を築いてきた淡路市の人たちの努力の積み重ねだと思います。関わり合う人が変わっても、これまで続けてきた関係を維持しようと、様々な工夫を凝らしてきた人たちのおかげで、今回、私たちの使節団も何の不安もなく楽しく交流ができたのだと思っています。今回の訪問に際して尽力してくださった、すべての方々に感謝申し上げるとともに、これまで関わってきてくださった多くの方々に尊敬の意を表します。また、今度は私たちが次の団員や周りの方々にこの経験を伝える番だと思っています。

2つ目は、やはり文化は違っても人を思いやる心は同じだということです。私自身これ

まで多くの国を訪問してきましたが、たとえ言葉がうまく通じなくても、「心から相手に接すれば何か伝わる」ということを何度も実感してきました。今回の旅で団員たちがこのことに気づいてくれていれば、幸いです。そして、その中で、より気持ちを伝えるために言葉はとても大切で、特に英語を話すことができれば、より多くの人と繋がることできるということに気づいてもらえたらと思います。

3つ目は、いろんなことにチャレンジする気持ちと情熱をもってほしいということです。何事にも情熱をもって取り組めば、不可能が可能になります。まだまだ、英語を学習過程の団員たちは、もどかしい思いをたくさんしたかもしれません。でも、だからこそ、自分の視野を広げたり、いろんな人と繋がりたいという情熱をもって、これから前に進んでしてもらえたらと思います。私にとっても今回の訪問は、本当に意義のあるものになりました。今回経験したことを自分の生徒たちに伝え、生徒たちが夢をもって世界に羽ばたく手伝いができればと思っています。そして、その中からこのプログラムに参加しようという生徒が1人でも多く増えてくれたらと思います。

最後に、これからも姉妹都市、姉妹図書館との友好な関係がいつまでも続きますよう、願っております。本当にこのような機会を与えていただき、感謝しています。ありがとうございました。



青少年海外派遣団員サプリーダーのお話をいただいたときは、こんな光栄なことはないと、迷わず「ぜひお願いします」と返事をしました。海外の文化・歴史に興味があり、入庁以来、毎年参加してみたいと考えていたため、派遣が決まった時は嬉しい気持ちと感謝の気持ちでいっぱいでした。今回、ほとんどのメンバーが初めて海外を経験するということが、いろんな体験や感動を味わってもらい、心に残るすばらしい派遣事業にしてもらいたいと思いました。

数回行われた研修会では、初めて会う人へのあいさつのしかたや入国審査での対応などを練習し、準備を進めてきました。「トラブルなく無事に帰ってくるができるのか」という少しの不安と「どのような人たちと出会い、どんな旅になるのだろう」という大きな期待いとワクワクした気持ちで当日の朝を迎えました。

7月23日、出発当日は、朝4時半の集合にもかかわらず、団員全員が元気な姿で集合しました。見送りに来ていただいた家族に別れを告げ、伊丹空港へ出発。空港では、航空券の説明や手荷物などを一通りチェックし、市役所、国際交流協会の方々に見送られ、出発ゲートに向かいました。乗り継ぎの成田空港では、みんな初めての外貨両替を経験し、お土産の話などで盛り上がっていました。少し時間があつたので、集合場所と時間を決め、自由時間にしました。飲み物を買う子や写真を撮る子などリラックスした様子で過ごしていました。出国審査を終え、いざアメリカへ。約12時間のロングフライトを経て、予定通りデトロイトに到着しました。到着時は、ほとんどのメンバーが疲れた顔をしていましたが、入国審査を前に一瞬で緊張した顔になりました。無事に入国審査も終え、バスに乗り込み、姉妹図書館であるウェストブルームフィールド図書館に向かいました。図書館の皆様には、長旅で疲れている団員を温かく迎えていただきました。簡単な自己紹介を済ませ、夕食を食べながら交流を楽しみました。サンドイッチ・ポテトチップス・クッキーが準備され、アメリカでの最初の食事ということで新鮮な気持ちでいただきました。後々、わかるのですが、この組み合わせの食事が数日続きます。食事後は、館内を案内していただきました。すべてのものが充実していて、一日中過ごせる魅力的なところでした。入口ロビーには、過去に淡路市から送られた写真や記念品が大切に展示・保管され、スタッフの心遣いに感動しました。見学後、ホテルへ向かい無事チェックインを済ませ、長い1日が終わりました。

7月24日、この日は、図書館職員の方に終日付き添っていただきました。午前中に Westacres Branch 図書館を訪問しました。子どもたちの過ごせるスペースが充実し、夏休

みには子ども向けプログラムの実施など足を運びやすい工夫がされているところに、日本の図書館との違いを感じました。その後、ルーズベルト小学校を訪問し、マジックショーの鑑賞と校内を少し見学させていただきました。時間がなかったため、日本から持参した吹き戻しやクリアファイルなどのプレゼントを渡し、バスに乗り込みました。約1時間かけてデトロイト市内へ移動し、昼食を GM Renaissance Center のお店でサンドイッチ・ポテトチップス・クッキーをいただきました。前日と同じ組み合わせで、アメリカでは毎食ポテトチップスを食べるのか疑問に思ったので、通訳の方に確認すると、この組み合わせはみんなで集まって食事をするときの定番だと聞き、納得しました。

昼食後は、ガイドの方にセンターを案内してもらいました。センター内はとても広く、1階のスペースにはGM社の車が展示され、日本では、ほとんど見ることがない大きな車がたくさん展示されていました。車に乗っても良いと言われたので、各々、好きな車に乗り、写真を撮って楽しみました。

見学を終え、いよいよ在デトロイト日本国総領事館の訪問です。受付では、事前連絡に行き違いがあったみたいで、少し待たされるというハプニングもありましたが、無事に領事館へ入ることができました。入室時には、携帯やカメラを没収されるなど、セキュリティーチェックの厳しさに驚きつつ、いよいよ和田領事との面会です。和田領事には、デトロイトの様子や領事館の仕事内容、プライベートの過ごし方など、様々なお話をいただきました。「日本とアメリカの違いを学んで、どうすれば日本が良くなるか考えてほしい。」とお言葉をいただきました。メモをとるなどみんな熱心に話を聞き、少なからずそれぞれの心に響いたのではないかと信じています。その後、Motown Museum を見学しました。デトロイトはモータウンレコードの発祥の地ということもあり、初めに使用されたスタジオなどが展示されていました。ガイドさんがとても陽気な方で、楽しい雰囲気で見学できました。夕食会のレストランへ向かうとクララ図書館長や図書館のスタッフの方々が待っていてくれました。食事をいただき、団員のスピーチ、記念品の交換、書道パフォーマンスを披露しました。書道について、みなさん興味津々で写真を撮ったり、実際に体験したり、すごく喜んでいただいたので安心しました。



7月25日、セントメリーズへの移動の日。時間通りロビーに集合し、デトロイト空港へ出発しました。チェックインを済ませ、搭乗まで少し時間があつたので、お土産を買ったり、飛行機の写真を撮ったり、海外にも慣れてきたのか楽しんでいる様子でした。デイトン空港に到着すると、ジャックリンとホストファミリーの子どもたちが出迎えてくれました。準備いただいたスクールバスでセントメリーズ市へと向かいました。車窓からは、だんだんと緑が増え、雄大な風景を眺めながら、「セントメリーズ市はどんなところだろう」、「ホストファミリーはどんな人たちなのだろう」とワクワクしてきました。Friendship Center に到着すると、ホストファミリーの方々が笑顔で温かく歓迎してくれました。到着時は、みんなどうしたら良いのかという表情でしたが、屋外ゲームや昼食、ロックペイント体験などを通して、現地の方々と交流していくうちに、あっという間に仲良くなっていたので、すごく驚きました。最初は、言葉の壁に直面し、なかなかコミュニケーションが取れていない様子でしたが、解らない言葉があるとリーダーの石上先生に確認する子や翻訳アプリを活用する子など、様々な方法でコミュニケーションを図るよう努力していました。

7月26日、午前中に市役所を訪問し、市長と面会しました。ここでは、記念品贈呈や4名の団員によるスピーチなどを行いました。緊張しながらも堂々とスピーチを終え、一安心しました。市役所内には、過去に淡路市から送られた記念品がたくさん展示され、交流の深さを改めて実感しました。その後、担当の方に案内していただき、Memorial Park、Heritage Park の見学、市役所周辺の散策を行いました。Memorial Park 内の運河前では、本日のミッションでもあつた市長との記念撮影を行いました。昼からは、消防署、警察署、Art's Place Activity、Mooney Museum 等を見学しました。すべての施設が市内中心部にあり、徒歩圏内で移動ができ、セントメリーズ市の暮らしや歴史文化を肌で感じながら学ぶことができました。行くところすべての方々が、とてもフレンドリーで、消防署では、防護服の試着やはしご車に乗せていただいたり、すぐ隣にある警察署では、訓練用の拳銃やライフル銃を持たしてもらするなどアメリカならではの体験をさせていただきました。

7月27日、保育園を訪問し、吹き戻しや紙風船で子供たちと交流しました。その後、Neil Armstrong Museum を訪問し、宇宙服の展示やミニシアター上映などで、歴史的な一面を学ぶことができました。昼食は、セントメリーズ市に戻り、Memorial Park でピクニックをしました。昨日、お世話になった市役所、消防、警察の方々や老人ホームの方々も参加していただき、大人数のランチとなりました。参加された方々と一緒に写真をとったり、名刺を配ったり、メンバー全員が積極的に交流を図っていて、成長している姿を見ることができました。昼からは、St. Marys Memorial High School を訪問しました。公立の中高一貫校で、敷地も広く、廊下にはロッカーがあり、よく映画で観るアメリカンスタイルの

校舎内を興味津々に見学していました。この学校は、スポーツに力を入れているとのこと、食堂にはたくさんのトロフィーが展示されていました。その後、Bicycle Museum の見学では、随行していただいているジャックリンの職場ということで、本人に案内、説明いただきました。最古の自転車やすこし変わった面白い自転車など様々な自転車が展示されており、みんな興味津々で写真を撮ったり、実際に乗車したりして楽しみました。この日は、早めの解散で、夕方以降はホストファミリーと過ごしました。

7月28日、ホストファミリーと自由行動の日。この日は、ジャックリン姉妹と石上リーダーと一緒に行動しました。朝食は、ホストファミリーであるジャックリンの実家でいただき、その後、車で2時間ほどの West Liberty にあるオハイオ洞窟へ向かいました。途中、マクドナルドに寄り、1ドルで購入した大きめのコーヒーを片手に、トウモロコシ畑などが広がるアメリカの雄大な景色を眺めながらのドライブは最高でした。目的地に到着するとたくさんの車が停まっていて、キャンプやピクニックを楽しむ人たちがいました。あまりの多さに、アメリカ人は本当にピクニックが好きなんだと改めて思いました。洞窟内の見学は、歴史を学ぶツアーとクリスタルが見学できるツアーがあり、私たちは歴史を学ぶツアーに参加しました。ガイドの説明を受けながら洞窟を進んでいくと、鍾乳石などがライトアップされ、まるでインディージョーンズの世界にいるような気持ちでとても面白かったです。その後、現地の有名なハンバーガー店で夕食をとり、ショッピングを楽しみました。他の団員も、動物園に行ったり、ショッピングを楽しんだと話していたので、みんな充実した1日を過ごせたと思います。

7月29日、この日は、ホストファミリーの習慣である日曜礼拝に参加するため、近くの協会へ行きました。きちんとした参加は初めてで、貴重な経験をさせてもらいました。午前中からは、Auglaize County Fair へ向かいました。地元学生たちが日ごろの活動の成果を発表するイベントということで、アート作品や農産物の展示、家畜のセリなど様々な催しがありました。昼食まで少し時間があつたので、急ぎよ、近くにある Temple of tolerance を見学しました。個人所有の敷地ですが、自由に出入りができ、庭園に石のオブジェなどが広がっていました。午後からは、イベント会場に戻り、移動遊園地などで楽しみました。団員の中には、同じ種類のミサンガを買い、ホストファミリーにプレゼントするなど、夕方には、Friendship Center で送別会をしていただきました。みんなで夕食を食べて、お土産をたくさんいただいて、団員がスピーチをして、出し物の書道のパフォーマンスを披露しました。書道パフォーマンス後、ホストファミリーも一緒になり、書道を体験しました。書きたい漢字の質問、筆の使い方、漢字の意味など積極的に英語を使って声をかける成長した姿を見て、すごく心強く思いました。この送別パーティーでは、それぞれが最後の貴重な時間をホストファミリーと過ごしていたと思います。

7月30日、帰国の朝。4時30分に集合し、ホストファミリーに別れを告げ、デイトン空港へと出発しました。空港では、みんな手慣れた様子でチェックインやセキュリティーチェックなどを済ませ、いよいよ帰国へ。乗り継ぎの関係で、途中、ミネアポリスに立ち寄り、少し時間があつたので自由時間をとりました。お土産を買う子や食事をする子など、それぞれが最後のアメリカを楽しんでいました。伊丹空港に到着したときには、さすがにみんな疲れた様子でした。空港まで迎えに来てくださった淡路市の方、国際交流協会の方の顔を見た瞬間に、トラブルなく無事に帰って来ることができたと実感でき、その安堵感からかバスの中ではすぐに眠りについてしまいました。解散場所に到着後、それぞれの家族に再会した時は、さすがにみんな安心した様子でした。本当にお疲れ様でした。9日間、慣れない環境で一緒に頑張ってくれた団員みんなにありがとうと伝えたいです。

今回の派遣事業に参加し、青少年や地元の方々と交流する中で、さまざまなことを感じました。言葉が通じない初対面の方々に積極的に話しかける姿、リーダーに英語を確認して自分から話そうとする姿、スピーチを堂々とする姿を見ていると、淡路市の青少年たちの力強さと可能性を感じ、私自身も多くのことを学ばせていただきました。

団員のみんなには、今回の旅を「楽しかった」で終わらせるのではなく、経験したと感じたことを今後に活かしていただき、更なる活躍を期待しています。いろんなことにどんどんチャレンジして、この先も様々な世界を見てほしいと思います。今回の旅がそのきっかけの1つになってくれれば嬉しいです。

9日間という短い期間に、メンバーたちの成長していく姿を見ることができました。また、石上リーダーをはじめ、11名の派遣団員と過ごせたこの期間は、私にとってとても思い出深いものとなりました。今回、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様方、現地で温かく迎えていただいた皆様方に感謝申し上げます。今日まで続けてきた姉妹都市交流事業、姉妹図書館交流事業がこれからますます発展し、末永く続きますよう、心から願います。本当にありがとうございました。



思い出アルバム



乗り継ぎの空港にて



アメリカンサイズのピザ!



スクールバスで移動♪



Dairy Queenでアイス休憩



食事はビュッフェスタイルで

ウェストルームフィールド図書館 クララ館長と



アメリカで初めての食事!



GM ルネサンスセンター見学



ウェストルームフィールド図書館と
Westacres Branch 分館見学





保育園で吹き戻し&紙風船であそんだよ

保育園訪問
子ども達が笑顔で迎えてくれました



英語のスピーチも頑張りました!



消防署警察署見学



在シトロイト日本国大使館表敬訪問



Thanks you St. Marys! See you again.



みんなで書道!



淡路市章発見♪



メモリアルハイスクール見学

図書館なのに
遊園地みたいでしょ?!



ホストシスターズと



メモリアルパーク、ヘリテージパーク見学

平成30年度

**姉妹都市アメリカオハイオ州セントメリーズ市
姉妹図書館ウェストフルームフィールド図書館**

青少年海外派遣事業報告集

**発行・編集 淡路市企画政策部秘書広報課
NPO 法人 淡路市国際交流協会
発行年月 平成30年8月**